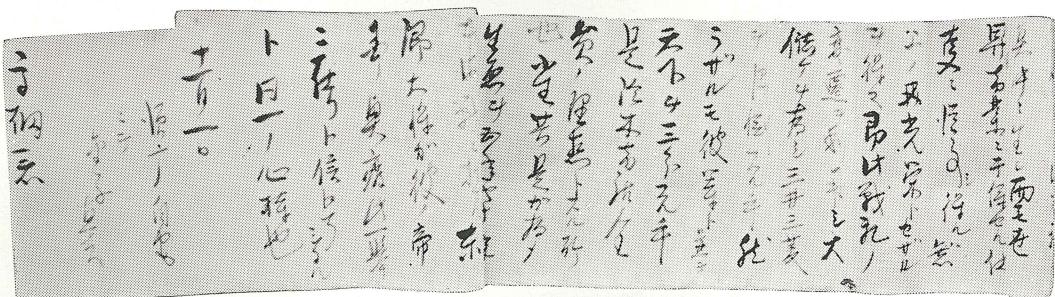


大正七年東須磨大手本家



太田新次郎	土居香国
森衆郎	鈴木岩治郎
日野誠義	鈴木岩藏
鈴木よね刀自	鈴木政江
柳田政江	北尾直樹
鈴木兎三	西川文蔵
桑田卯之助	柳田富士松
藤田愛義	小川熊吉



“天下三分の計”  
で有名な金子翁  
(分部)

大乱の真中に生れ而も世界的  
商業に干係せる仕事に従事し  
得るは無上の光榮とせざるを  
得ず即此戦乱の変遷を利用し  
大儲けを為し三井三菱をアッ  
倒する乎然らざるも彼等と並  
て天下を三分する乎是鈴木商  
店全員の理想とする所也小生  
是が為め生命を五年や十年早  
くするも縮少するも更々イト  
ふ所にあらず要是成功如何に  
在りと考へ日々戦罷在り  
恐らくは独乙の天子様でも小  
生程働き居らざるべしと自任  
し居る所也ロンドンの諸君是  
に協力を切望す小生が須磨の  
自宅に於て出勤前此書を記す  
るは日本海海戦に於ける東郷  
大将が彼の帝国の興廢此一挙  
に在りと信号したると同一の  
心持也

十一月一日

須磨自宅にて

高畑君

金子直吉

小川君